

彩菜栽

2015年
4月

果菜類の トンネル栽培のポイント

早取りを狙うトンネル栽培の植えどきは、桜の花が散り、日増しに陽光が強くなりだした4月上旬ごろです。

果菜類の中でもカボチャ、トマトは比較的低温に強いのが特徴です。続いてキュウリ、次にナス、ピーマン、一番弱いのはスイカ、メロンとなります。植え付けはこの順で、2週間ほどの差をつけるようにします。

植え付けが近づいたら、早めに元肥を施し、高めに形よく畝を作りま^{かんすい}す。数日前にはたっぷり灌水し、植え穴を掘ってトンネルをフィルムで覆い、すそに土を掛けて密閉して、十分に地温を高めておきましょう。適期がきたら、晴天日を見計らって苗を植え付け、株の周りに灌水します。そして直ちにフィルムで覆い、



畝を作り前もって灌水したら、植え穴を掘る。トンネルのフィルムを掛けて暖めておく



植えつけ

十分暖まったところへ苗を植えつける



日中30～32度以上にならないように換気する

「自然換気2法」

・2枚を合わせて頂部を開く



・頂部穴開き



いずれもすそには土を掛けて寒風の侵入を防ぐ

すそに土を掛けて密閉保温しましょう。トンネル内の気温が30度以上になるようなら、所々少しだけトンネルのすそのフィルムを開けます。夜間はすそを閉じて保温します。肝心なのは晴天の日中の換気です。およその目標として30～32度以上に

ならないよう、所々すそを上げて通気しますが、風でフィルムがずり落ちたり、大きく開きすぎたりしないよう、注意が必要です。この約1ヶ月間の管理の良しあしで、トンネル栽培の成否が決まります。目が行き届かないようなら、図のように頂部を開口させる方が安全です。すそからの冷たい風が入らないので、順調な生育が期待できます。降霜の恐れがあるときは、夜間だけでも1枚、フィルムかこもなどの保温材料を掛けて保護しましょう。換気をする^と乾くので、土の湿り具合を見て、時々灌水します。5月上旬になり、茎葉がトンネル内いっ

ばいに伸びてきたら、徐々にフィルムを大きく開けます。やがて日中は全開放にし、夜だけ掛けるようになります。そして、次第に夜も開放しながら徐々に外気に慣らし、暖かくなったらフィルムを外して露地と同じような栽培管理に移していきます。トマトやナス、ピーマン、キュウリは支柱を立て誘引し、カボチャ、メロン、スイカはつるを外に向けてはわせませんが、このときできるだけ葉が裏返しにならないようにして、丁寧に扱ってください。誘引しながら、すぐに1回目の追肥をして、盛んな生育に 대응しましょう。